

(1)発表資料の状況設定

講座単位の先生方の会議があると仮定して、その会議の前に時間を15分頂いて、機関リポジトリの概要説明とコンテンツ提供のお願いをする。訪問する講座は文系の講座で、先生方の人数は5~10名程度、先生方はほとんど機関リポジトリについて聞いたことがない、という状況。（発表7分、質疑8分）

(2)発表内容抄録と研修当日の講師からの助言、及び研修発表との改訂部分

◆抄録

最初に研究者に対して教育研究成果の保存や公開に関して不満や困難を感じているのではないかと呼びかけ、これから構築しようとしている総合学術情報データベースとはどういうものなのかについて説明を行った。次にこのデータベースの利用のメリットを、「保存の負担の軽減」と「成果の効果的発信」という2つのポイントから説明し、その際にGoogleから北海道大学のHUSCAPに搭載されている論文がどのように探せるかを実演した。最後にコンテンツ提供方法のご案内を行った。

◆研修当日の助言

- ・(コンテンツの提供に関して) 実際には何をどうすればよいのか、よくわからない。
- ・「学長公認」と書いてあると、義務化されるように受けとられる可能性がある。
- ・検索の様子はスライドで示すだけでなく実際に検索してみせると心をつかめる。
- ・人文科学系と自然科学系の先生方にそれぞれアピールポイントを考えておくべき。

◆改訂部分

- ・状況設定を文系対象にし、講座の会議前に時間をもらったという設定に変更。
- ・アピールポイントとして文系の先生方にメリットになりそうなこと（原稿の保存、論文発表の場の提供）を中心に話を展開した。
- ・発表資料は全面的に改訂した。

(3)リハプレゼンの概要（日時、場所、発表者、発表対象、参加人数 etc.）

日時：平成18年9月28日（木） 10:00-11:15

場所：お茶の水女子大学附属図書館第一会議室

発表者：廣田

発表対象：図書・情報課職員（課長含む）、図書館長

参加人数：11人

(4)リハプレゼンへの反響（アンケートをとった場合の結果、感想の声等）

- ・館長から研究者ならではの視点でアドバイスを頂いた。
- ・職員からも実際に先生方から質問の上がりそうなことが質問としてあがり、受け答えのシミュレーションができた。

<具体的な質問や助言（抜粋）>

- ・電子ジャーナルとして公開されている論文でも大丈夫か
- ・キーワードは誰がつけるのか
- ・指導している学生の論文を載せたいが、可能か
- ・アクセス制限をかけることは可能か
- ・他大学の先生と一緒に書いたものでも大丈夫か
- ・保存の観点よりは電子化して公開する点のメリットを強調したほうがよい
- ・短時間で発表をする時はすべてを話そうとせず、後の質問を引き出すように話すべき

(5)その他（備考、今後の予定と希望 etc.）

これから実際に教授会等で時間を頂いて順次説明を行う予定なので、今回の研修で作成した資料を元にして効果的なアピールができるようにしていきたいと考えている。

受講者

- | | | | |
|----|-------|----------|---------------|
| 12 | 廣田未来 | お茶の水女子大学 | 図書・情報課情報管理係 |
| 11 | 井上梨恵子 | お茶の水女子大学 | 図書・情報課情報システム係 |